

室内環境について思うこと

田中 浩史

(株)三菱化学アナリティック 分析事業部分析営業統括東京支店

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-5-4 中庄ビル4F

この季節、暑かったり寒かったり気温の変動が激しく感じ、体調管理も非常に難しく、ちょっとしたことで不調を訴えてしまいます。こういった体の不調は本人には非常につらく感じ、なかなか思うような行動ができなく、予定を立てても遅々として進まなくなってしまう、それによりストレスを感じ、また体調を崩すという悪循環におちいってしまっています。

同じように体調を崩すということを考えると、シックハウス症候群や化学物質過敏症を発症されている方々は、よりつらい状況ではないかと思えます。

現在、室内化学物質汚染による健康被害、また室内環境における化学物質濃度測定とその対策が行われるようになって早数年がたっています。その間、建築基準法改正による規制、さらには2008年4月に制定された「VOC放散速度基準値」による自主表示制度等が行われようとしています。このことによって、室内中における化学物質の濃度は下がってきており、人間にとってより化学物質暴露の危険性の少ない環境が整ってきているのではないかと考えられます。

そういった中で、室内環境評価においては化学物質の濃度だけではなく、臭いや微生物による汚染などがその環境を評価するうえで、重要になってきています。

特に、臭いについては、私の子供のころには、新築の臭いや新車、新製品の臭いといったものは、一

種の新品のステータスのように扱われ、羨望を集めたり、優越感に浸れたりして、大事に取り扱った思いがあります。そして、ある期間、換気や使用を繰り返すことにより、その臭いはなくなり(実際には、臭いに対する慣れなども、起因するのだらうと思いますが。)大事に扱うことを忘れていったのではないかと思います。

今、室内環境においては、臭いについての研究が活発にされ始めています。また、臭いのない製品などの開発をされている話も耳にしますが、私のような新品の臭いにステータスを感じていた世代にとっては少しだけ寂しい話にも聞こえます。

とりとめのない話になってしまいましたが、私個人としては化学物質や臭いをまったく排除するのではなく、測定の技術などを使って、上手に付き合っていく、少しでもストレスのないような環境を創造することができたらよいと思い、それに対し少しでも役に立つことができるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。